

## 第1章 釧路市の概要

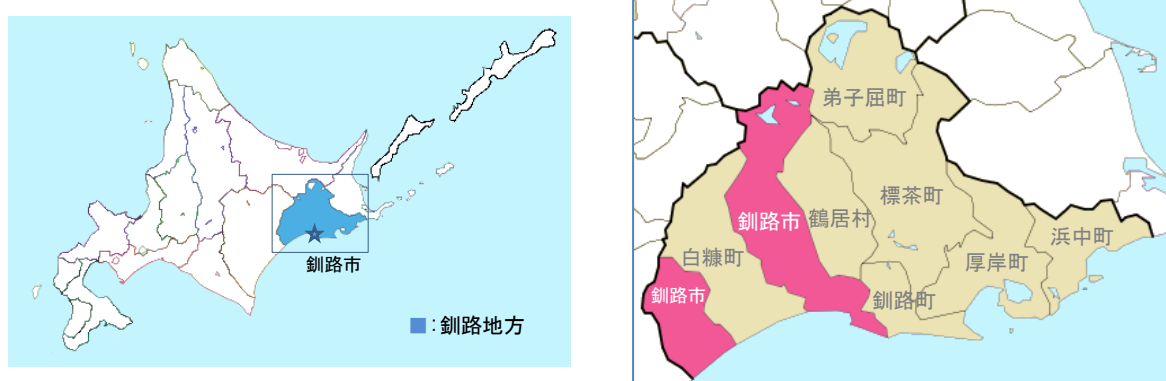
### 1 概要

本市は、平成17年10月11日に釧路市、阿寒町、音別町が合併して誕生しました。北海道の東部、東経144度22分24秒、北緯42度58分10秒に位置し、行政区域の面積は1,363.29km<sup>2</sup>となっています。

阿寒摩周、釧路湿原の2つの国立公園をはじめ、海洋、湿原、山、森林、湖沼、河川など多彩で雄大な自然に恵まれています。

また、これらの恵まれた自然環境や港湾機能に支えられながら、農業、林業、水産業、鉱工業、観光業、商業など様々な産業が発展し、東北海道の中核拠点都市となっています。

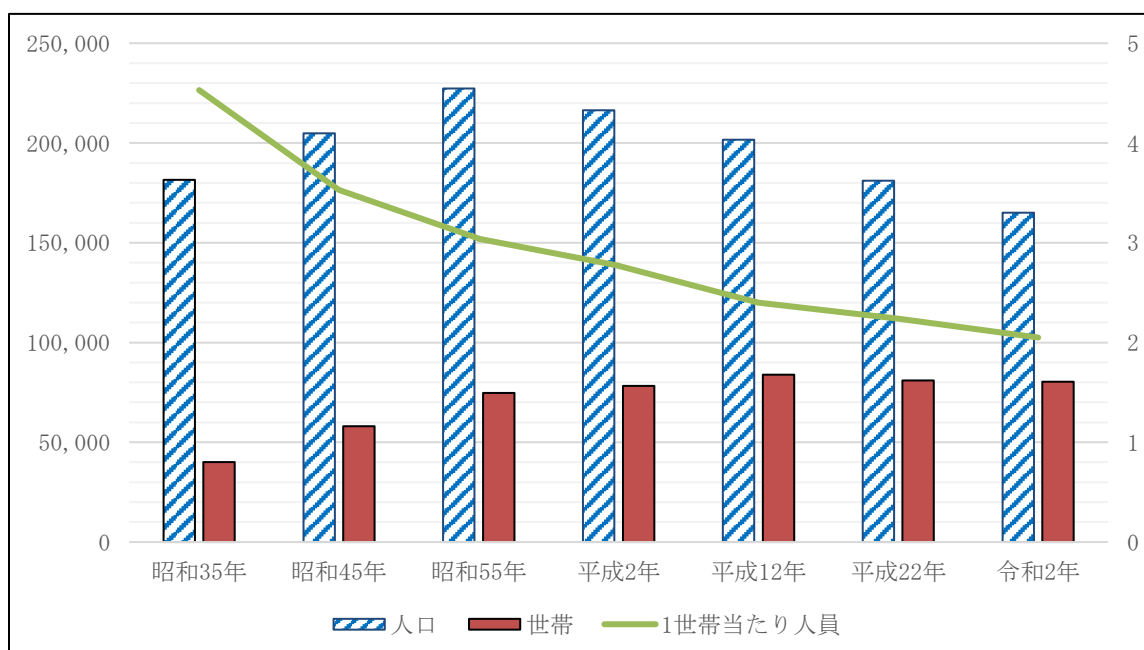
図1-1-1 本市の位置図



### 2 人口

令和3年3月末現在の住民基本台帳によると、本市の人口は164,298人、世帯数は93,643世帯となっています。なお、住民基本台帳法の改正に伴い、平成24年7月以降の世帯数及び人口は、外国人住民を含んだ数値となっております。

図1-2-1 国勢調査による本市の人口・世帯数の推移



### 3 気候

本市の気候は、一般に冷涼です。冬期間の寒さは厳しい反面、積雪は概して多くありません。5月から8月にかけては、海霧が発生しやすく、日照時間が少ないため、夏季の気温は20℃前後となります。11月以降は快晴が多く、乾燥した日が続きます。降雪は12月から4月上旬にかけて見られ、最深積雪は30cm程度で、道内他都市と比べて極めて少なくなっています。

また、内陸に位置する阿寒地域では、釧路地域と比べ、年間を通して寒暖の差が大きく、降雪量が多いことが特徴です。

表1-3-1 本市（釧路地域）の気温・降水量等

年月	気温(℃)			降水量(mm)	最深積雪(cm)	日照時間(h)
	平均	最高	最低			
2016(H28)	7.0	30.3	-18.6	1,498.0	30	2,046.1
2017(H29)	6.7	30.6	-19.0	883.0	34	2,128.8
2018(H30)	7.2	30.1	-16.9	1,136.5	14	1,914.6
2019(R1)	7.1	31.4	-22.4	1,098.0	30	2,143.0
2020(R2)	7.5	30.4	-18.0	856.0	73	2,015.7
1月	-4.0	3.3	-15.4	34.5	27	184.6
2月	-4.0	6.7	-18.0	27.0	21	202.5
3月	1.5	11.4	-9.1	129.5	73	201.8
4月	4.1	12.9	-3.2	65.0	9	205.0
5月	9.4	24.8	2.0	45.0	--	192.8
6月	14.1	24.6	8.2	149.5	--	123.4
7月	16.5	23.8	11.3	36.0	--	88.0
8月	19.5	30.4	11.2	95.0	--	139.1
9月	17.2	27.0	5.7	122.0	--	109.3
10月	12.2	21.5	1.3	143.5	--	186.7
11月	5.8	16.3	-5.5	8.5	--	167.6
12月	-2.5	7.7	-12.8	0.5	1	214.9

※ 釧路地方気象台による。

表1-3-2 本市（阿寒地域）の気温・降水量等

場所	気温(℃)			降水量(mm)	最深積雪(cm)	日照時間(h)
	平均	最高	最低			
中徹別	6.6	33.5	-23.5	1,006.0	60	1,781.6
阿寒湖畔	5.1	32.5	-26.1	866.5	99	1,703.4

※ 釧路地方気象台による。2020年の値。

### 4 産業

第一次産業では、水産業が国際漁業規制の強化や主力水産資源の減少という現実に直面し、かつて100万tあった水揚げ量が、ここ数年は11～17万tの間を推移しています。

林業については、素材生産量（販売用の伐採原木量）がここ数年3万m<sup>3</sup>前後で推移しています。

第二次産業では、石炭鉱業は太平洋炭礦(株)の閉山後に、釧路コールマイン(株)が事業を引き継いでいますが、生産量は年間22万t～61万tの間を推移しています。

製造業は、パルプ・紙・紙加工品製造業が中心であり、2020年工業統計調査では、製造品出荷額等2,433億円のうち28.7%を占めています。

第三次産業では、小売業の年間販売額が平成28年経済センサス調査－活動調査で1,987億円となっています。観光についてみると、観光入込客数は近年増加傾向にありましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前年度の約531万人から大幅に減少し、246万人となっています。